

令和三年度学校関係者評価委員会報告書

世田谷区立深沢中学校

1 アンケートごとの評価

I. 生徒のアンケートより

- ・回収率 全学年で382通の回答があった。回収率は99.4%である。
- ・生徒の教育活動に対する評価の肯定的回答率を見ると、「映像やタブレットなどのICTを利用し、わかりやすい授業をしている。」93%、「部活動は楽しい。」92%、「友達と学校で活動するのは楽しい」95%「学校生活は楽しい」90%等と全体的には肯定的回答が否定的回答を上回っている。
- ・キャリア教育に関して「自分の進路や将来の仕事について、考える授業がある。」83%、「学校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している。」79%と昨年度から横這いである。「私は、次年度の目標について、考えて行動している。」75%と昨年度に比べ約6パーセント減少している。コロナ禍の影響で目標が立てにくいという状況があるかもしれないが、原因究明と改善について検討の必要があると考える。
- ・「学び舎の小学校に行ったり、小学生が来たりする機会がある。」21%と昨年より約11パーセント減少している。コロナ禍で小学校との交流ができなかったことが原因である。「自分には良いところがある」82%であるが、わからない率5%となっており、昨年度よりは肯定的回答が減少している。上記と合わせ、学校行事や地域活動等色々な面に目を向け、学習面に限らず何か良いところがあると前向きに考えられるよう働きかけ、わからない率を減らし、肯定的回答85%以上を目指す。
- ・学び舎の活動については、コロナ禍を脱した時に、どのように生徒と児童が交流する機会をもたせるかを模索していくことが課題である。
- ・「先生たちは、生徒が相談しやすい。」78%と昨年度より約4%肯定的な割合が増えている。これまでの取り組みを更に進めて、生徒の言葉にしっかり耳を傾け、生徒個々を見ていく努力の継続を希望する。

II. 保護者のアンケートより

- ・回収率 全学年で326通の回答があった。今回は384通のアンケートを配布したので、回収率は85%、昨年度より5%下がっている。
- ・「映像やタブレットなどのICTを利用し、わかりやすい授業をしている。」81%と昨年度より32%上がり、わからない率が26%減少した。また、「子どもは、家庭で宿題やeラーニングなどで学習している。」が69%で昨年度に比べ9%上昇した。
- ・「学校での過ごし方やルールについて子どもに考えさせる指導をしている。」90%、「教員が指導した学校での過ごし方やルールについて子どもが理解している。」92%とともに6～7%肯定的評価が上がっている。
- ・「地域の活動や行事に協力的である。」は87%、で昨年度に比べ5.4%上昇した。全体としては「近隣の(幼稚園・)小・中学校で構成する「学び舎」の(幼稚園・)小学校に行ったり、(幼児・)小学校が来たりする機会がある。」では、56%となり、コロナ禍の影響で肯定的回答が10%減り、わからない率も増加している。
- ・「学校公開や保護者会などで、生徒の様子が分かる。」では、82%で6%肯定的評価が減少している。これは直接生徒の様子を見る機会が減っているためと思われる。
- ・学校運営に関しては、「保護者に指導の重点を伝えている。」83%、「教職員が指導の重点を理解して教育活動に取り組んでいる。」86%で、昨年度より6%減少している。これも教員と直接対話をする機会が減っているせいと思われるが、保護者との信頼関係の醸成は学校運営において何よりも重要なポイントとなるので、原因については注意深く分析する必要がある。
- ・「お子様は学校生活を楽しく過ごしている。」は91%で、昨年度より3.5%減少し、「お子様は夢を育もうとしている。」は80%で、5.6%減少している。後半については、自宅で過ごす時間が長くなる中で、保護者が生徒の様子を見ていて感じたり、あるいは生徒自身が口にする言葉などが影響していると想像され、学校で見せる姿と家庭の姿にギャップが生じている可能性がある。保護者との連携が望まれる。

III. 地域の方のアンケートより

- ・回収率 学校協議会委員(出張所、消防、町会長、青少年委員)など60名にアンケートを送付し、46名から回答をいただいた。回収率は76.7%と昨年度より19.7%上昇した。
- ・昨年度と同じ評価であったのは、「通学している子どもたちは、交通ルールなどを守っている。」「学校は、安心・安全な学校づくりを進めている。」で、肯定的評価は100%であった。また、「学校行事の内容は充実している。」「学校からのお知らせや学校だよりなどにより、学校の様子がよくわかる。」は98%であった。
- ・昨年度より評価が向上したものは、「学校のホームページに、学校からのお知らせや学校生活の様子が分かる情報が掲載されている。」「学校協議会や合同学校協議会が役割を果たしている。」で、ともに96～97%の肯定的評価である。昨年度より5～12%向上している。
- ・「学び舎」の活動について、情報が提供されている。」「学校公開や道德授業地区公開講座などで学校の様子がよくわかる。」「学校は、安全性を高めようと地域と協力している。」は昨年度より5～12%肯定的評価が減少している。
- ・わからない率について、一部の項目で増加しており、20%以上の回答が6項目ある。

2 評価項目ごとの評価

I. 重点目標について

- ・「保護者に指導の重点を伝えている。」という評価項目では、肯定的回答が保護者において83%、わからない率15%、地域において「学校の重点目標が明確である。」98%で2%増である。教職員においては「重点目標にそった取り組みを進めている。」に100%であり、すべて肯定的評価となっている。
- ・学校の重点目標について、その目的も含め学校だよりや学年だより等様々な方法で引き続き保護者に周知していく努力を行い共通理解をさらに深めていく必要がある。

II. 地域とともに子どもを育てる教育について

- ・「地域の人や施設を教育活動に活かしている。」の項目では、保護者の肯定的回答が80%で昨年より1.8%増加した。地域の肯定的回答は90%で3.5%増加である。
- ・今年度新たに質問項目となった「地域に情報を提供している。」の項目では、保護者の肯定的回答が83%で、わからない率が38%であった。引き続き保護者への情報提供を継続的に行われることを望む。
- ・PTA活動については、活動の見直し・スリム化を行っている中、「私は、学校行事、PTAや地域主催の行事などにすすんで協力している。」の項目では、保護者の肯定的回答は51%で、引き続き保護者の学校への協力体制が継続的に行われることを望む。
- ・「地域の活動や行事に協力的である。」の項目では、保護者の肯定的回答が87%で昨年より5%増と昨年度より向上している。引き続き、学校や生徒と地域との関わり方を見直し、改善に向けて検討することを望む。

III. 未来を担う子どもを育てる教育について

- ・「授業では、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある。」では、生徒の評価は90%である。積極的、意欲的に取り組み、コミュニケーション能力の高い生徒の育成を引き続きお願いしたい。
- ・生活指導については、保護者及び生徒ともほぼ90%以上の肯定的な回答であった。未来を担う子どもに対して、今後も学校の決まりや社会のマナー・ルールを理解し確認し合う機会を設けていただくよう望む。
- ・学校行事に関して「楽しい」「達成感がある」「意欲を大切にしている」を問う項目や、部活動に関しては、保護者・生徒とも90%を越える肯定的な回答である。

・ICTを活用した学習指導について「映像やタブレットなどのICTを利用し、わかりやすい授業をしている。」では、生徒は93%、保護者は81%と高い評価を得ている。キュビナの共同開発校に指定され、取り組んでいることが評価につながっている。

・キャリア教育について「自分の進路や将来の仕事について、考える授業がある。」では、生徒は83%、保護者は82%、「進路や将来に仕事に関する情報を提供している。」では、生徒は79%、保護者は77%と生徒と保護者ともに同じ程度の評価であるが、生徒に比べ保護者の分からない率が28%と高い数値になっている。学校からの保護者へ学校の教育活動を伝える努力をお願いしたい。

IV. 信頼と誇りのもてる学校づくりについて

・おおむね良好な評価である。

・保護者・地域・教職員において全て高い肯定的評価である校長のリーダーシップのもと、教職員が協力して教育活動に励んでいる様子について、保護者や地域にきちんと伝わっていることがうかがえるので、継続してほしい。

V. 教育環境の整備について

・「安全な学校づくりを進めている。」では、96%が肯定的評価であった。全体的に、訓練や本校施設の安全性について、肯定的回答が昨年度と同等であった。今後も学校の安全性について、引き続き保護者や地域へ積極的に情報提供し、周知と理解を徹底してほしい。

・各種訓練については昨年度に引き続いて救助袋による訓練を行い、各クラスの代表の生徒が体験することができた。実態に即した内容が適切に行われている。今後も継続することを望む。

VI. 学校生活全般について

・保護者アンケート「お子様は学校生活を楽しく過ごしている。」91%、「友達と学校で活動することは楽しい」95%と、生徒・保護者ともに充足度がかかなり高いといえる。

・一方生徒アンケート「学校生活は楽しい」90%と肯定的回答が3%昨年より減少している。引き続き、生徒の自己肯定感が高められるよう、心の教育を推進していくことを願う。

VII. 「学び舎」の目標について

①自分にはよいところがあると思いますか。	評価結果	82%
②友達と学校で活動することは楽しい。	評価結果	95%
③自分が住んでいる地域は好きである。	評価結果	91%

・昨年度との比較では、「①の自分にはよいところがあると思いますか。」4%減、「②友達と学校で活動することは楽しい。」昨年と同じ、「③自分が住んでいる地域は好きである。」1.8%減である。①～③のそれぞれは高い数値であるが、昨年度より若干肯定的評価が下がる傾向にある。生徒が自己肯定感を高められるよう、学習面だけでなく、学校行事や部活動、地域行事など様々な場面で活躍できる機会を作り、生徒が前向きになれる指導をお願いしたい。

3 学校自己評価について

I. 学校自己評価の方法は適切であるか

・適切に実施されたといえる。

II. 学校自己評価の結果の内容は適切であるか

・おおむね適切な内容といえる。

III. 学校自己評価の結果を踏まえた改善方策は適当であるか

自己評価の反省点から出された、次年度への具体的な改善点を各分掌で確実に引き継ぎ、教育の質をさらに高めていただきたい。また、思春期になり、自分のことや学校のことをなかなか話さなくなる年頃の中学生であるので、学校として意図的に保護者や地域に対して情報を発信し、生徒と保護者・地域との認識のズレを減らし、理解を得られるよう説明する機会を作ることをお願いしたい。

4 学校の課題及び学校への提言

○学習指導についてのICTの活用により生徒は、昨年度より肯定的評価が得られている。保護者については、わからないが大幅に減少して、肯定的評価がアップした。

○キャリア教育について、生徒は昨年度と同じレベルである。ただし、2・3年生に比べ1年生の評価がかかなり低い。また、保護者についても生徒と同じ傾向がみられるので、1学年からキャリア教育について何らかの情報提供がなされるよう検討していただきたい。

○先生の指導については高評価であるが、生徒の相談しやすさについては学年によって差があるので、どの学年においても先生に相談しやすい環境作りに引き続き取り組んでいただきたい。

○一人一人にタブレットが貸与されてから2年目を迎え肯定的評価が増加したが、生徒に比べわからない率がまだ高いので、保護者に対して伝える努力をお願いしたい。

○「学び舎については、昨年度に引き続き次年度には感染防止対策をした上で、何らかの交流が持てるよう検討していただきたい。

○学校からの情報提供は、「ホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している」について、昨年度に引き続き、高い評価を得ている。また「様々なたよりなどで、保護者に情報を提供している」は昨年度に比べ下がっている、さらにアップするよう継続していただきたい。

○学校運営において、「保護者に学校の教育方針を伝えている」は大幅に減少したので、肯定的な評価を得られるように保護者や地域に発信し続けていってほしい。

○地域において学校からの情報提供については、「学校からのお知らせ」や「学校だより」などにより、学校の様子がよくわかるという高い評価を得ている。一方、ホームページに関する項目では3割が「わからない」との回答をしているので、ホームページにアクセスできない環境にある地域の方に対する情報提供のあり方を更に検討していただきたい。

5 総合所見

保護者アンケート、生徒アンケート、地域アンケート、学校自己評価アンケートの実施、集計、分析においては適正に行われている。重点目標に沿った教育・取り組み・指導が行われていることもうかがえた。令和3年度も、新型コロナウイルス感染症の対策によって、行事の中止、縮小などの状況が続いていたが、新しい教育環境に対応しつつ、一所懸命教育活動に従事した教職員の方々に感謝の意を表するとともに、引き続き、校長のリーダーシップの下、『チーム深沢』として生徒・保護者・地域に寄り添い、ともに協力し合って、深沢中学校を「未来を拓き夢を叶える学校」に育てることを期待している。

令和三年度 世田谷区立深沢中学校 学校関係者評価委員会									
委員長	井坂 聡								
委員	青柳 義博	菅田 輝代志	谷岡 美貴	外館 孝則					
(事務局)	新妻 弘樹	佐藤 哲	山口 拓也	森岡 美奈子					